

2013年3月



風疹について

インフルエンザが流行している一方で、風疹の患者さんも増えています。特に、妊娠している女性は注意が必要です。

風疹の怖さは、妊娠初期の女性がかかると胎児にも感染し、生まれてくる赤ちゃんに障害が出るおそれがあることです。

2012年春以降、大流行しており、2012年の患者数は2353人と、過去5年間で最も多くなっています。通常は春から初夏にかけて流行し、冬には収まりますが、今年は1月に入ってから患者数が増えています。

子どもがかかる病気と思われがちですが、最近は大人の感染者が増加しています。2012年の患者数の約8割が成人です。その多くが20代から40代の男性です。

これから流行期の春・夏になっていきますので、さらに患者さんが増えていくことが心配されています。

風疹とは？

風疹ウイルスによっておこる急性の発疹性感染症です。ウイルスに感染してから 14～21 日間の潜伏期間を経て発症します。主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れ、目の充血、軽い咳などがあります。一度かかると、大部分の人はその後かかることはありません。風疹ウイルス感染者の咳やくしゃみからウイルスを含む飛沫が飛び散り、他の人がそれを鼻や口から吸い込んで感染します。発疹がでる 2～3 日前から、発疹がでたあとの 7 日くらいまでは感染力があると考えられています。感染力は、はしかや水ぼうそうほどは強くありません。



子どもは比較的軽い症状で治まりますが、まれに脳炎や血小板減少性紫斑病などの合併症が発生することもあります。また、大人がかかると、発熱や発疹の期間が長くなり関節痛がひどくなります。

○先天性風疹症候群

妊娠している女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、緑内障や心身に発育の遅れがみられたりするおそれがあり、これを先天性風疹症候群といいます。

妊娠初期に感染するほど障害が起こる確率が高く、障害が重複しやすくなります。予防接種を受けることによって、妊娠中に風疹にかかることを予防し、または妊婦以外の方が妊婦に風疹をうつすことを予防できます。(ただし妊娠中は風疹の予防接種を受けることはできません)



予防接種

風疹の流行を防ぎ、先天性風疹症候群を防ぐためにも、予防接種をきちんと受けることが大切です。

○子どもの場合



子どもの場合は定期接種として、麻疹と風疹のワクチンを混合した MR ワクチンの皮下注射が行われます。2回接種が基本で、1期は1歳、2期は就学前の1年間に受けます。

※3期として中学1年生、4期として高校3年生相当年齢に予防接種を受ける機会がありますが、この3期と4期は 2013年3月で公的負担が終了し、今後は自己負担となりますので、注意してください。

○成人の場合

成人の場合は任意接種となりますが、男女を問わず、予防接種を受けていない人や、風疹にかかった覚えのない人は予防接種を受けることが望まれます。

特に 20～40 歳代の男性は免疫を持っていない割合が高く、しかも家庭や職場で女性と接する機会が多くなります。妊婦さんに感染させないためにも積極的に予防接種を受けましょう。



※妊娠している女性は予防接種を受けられません。女性は、妊娠していない時期に予防接種を受け、接種後2ヵ月間は避妊することが必要です。妊娠中に風疹に対する抗体がないことが分かった場合は、妊娠初期に風疹にかからないよう、十分な注意が必要です。





風疹ウイルスに効果のある薬は、今のところありません。発熱、関節の腫れや痛みがあれば、解熱剤や消炎鎮痛剤というように、症状に応じた対症療法が治療の中心となります。

飛沫感染を防ぐためにも、人ごみを避ける、マスクを着用する、うがい手洗いをするなどの対策をしましょう。

また、風疹を疑って受診する場合、できれば事前に医療機関に連絡し、風疹が疑われることを伝えてください。感染を広げないために、待合室などの利用について指示がある場合もあります。

風疹についてもっと詳しく知りたい方は、医師または薬剤師にご相談ください。

予防接種については、医療機関に直接お問い合わせください。

(国立感染症研究所 / きょうの健康 2013.3月号 参照)



オーロラ薬局

TEL 019-635-1233

FAX 019-635-4555

オーロラ薬局 沼宮内店

TEL 0195-61-3883

FAX 0195-62-6868

オーロラ通信はホームページでもご覧になれます。

<http://www.iwate-aurora.com/>